

講演2 「がん患者さんの毎日を支える：がん薬物療法部の取り組み」及び「がんの支持療法」に関するQ&A

種別	質問	回答
事前質問	Q1：薬剤の選択はどのように行なうのでしょうか。例えば、投与経路、腎機能、年齢など、優先順位はあるのでしょうか。	A1：薬剤(抗がん剤)の選択には、様々な患者さんの状態を踏まえて行います。質問いただいたように、年齢や腎機能などの臓器機能は重要な要素です。他にも腫瘍のサイズや転移の部位なども大事な情報です。明確に優先順位はなく複合的な判断となりますが、その中でも特に患者さんが日中どれくらいの活動性で生活出来ているかは重要視しています。一般的に、日中の半分以上の時間をベッド上で横にならないと生活できない状態ですと抗癌剤治療が難しい場合が多いです。
事前質問	Q2：当事者を含め、家族で支え合う際に時々第三者を含むようなケア会議をする方が良いのか、そういった会は実際にあるのでしょうか。	A2：実際に第三者を交えた会議を行うことはあります。特に、病院から自宅退院となる際に介護をはじめとした社会的なサポートが必要となる場合などが該当します。ソーシャルワーカーや実際に介護を依頼する訪問看護ステーションの方、往診が必要な場合は往診医を交えて、今の患者さんの状態、治療目標やケアを行ううえでの注意点などを皆で共有し、これからのケアに役立てます。
事前質問	Q3：支持療法というのは、公認心理師など心理職が行うものですか。もしくは家族も含めたケアに関わる人すべてが行えるものですか。	A3：支持療法は心理職など専門職だけが行うものではありません。がん患者さんに関わる周囲のご家族や医療者など、ケアに関わるすべての方が実践できるものと考えています。必ずしも特別な資格や専門知識が必要というわけではなく、患者さんの安心感を支えたり、心理的な負担を軽減するような行動も支持療法の一環となり得ます。もちろん、我々医療者は専門的な知識や技術をもって患者さんのサポートを行います。例えば、患者さんのお話をじっくり聞いて寄り添うこと、日常生活の中で不安や悩みを共有することも立派な支持療法です。ですので、周囲のご家族も様々な形で支持療法を行うことが可能です。
事前質問	Q4：抗がん剤の副作用に強く不安を抱いていて治療に抵抗がある方に対して、なんと話したらよいか悩みます。治療を優先すべきことはわかっているのですが、全てが他人事のように聞こえてしまうのではないかと感じてしまいます。どういう風に考えたら先に進めるのでしょうか。	A4：患者さんが抱える不安に寄り添い、実際にどのような事を不安に考えているのかを具体的に教えてもらう事が重要だと思います。そのうえで、どのような解決策や対策をどのようにサポート出来るのかを一緒に考える姿勢を示すと、安心感を持ちやすくなります。
事前質問	Q5：乳がんです。タキソテールを投与中です。現在は効いているようで上がっていた腫瘍マーカーも平常値に戻りました。主治医はタキソテールでいけるころまでいくと言われていますが、タキソテールを投与し続けると特に顔にむくみがでると聞きました。何かできる予防法はありますか。現在は顔のマッサージなどでリンパの流れをよくするようにしています。何かありましたらアドバイス宜しくお願いいたします。	A5：難しいところですが、タキソテールによる浮腫は予防、治療としてしっかり有効性が示されているものがないのが現状ではあります。顔のマッサージも効果が見込めるかもしれませんが、良さそうだとと思われるのであれば実践してもらって良いと思います。足のむくみであれば、弾性ストッキングを使用したり、利尿薬を使用することもあります。顔のむくみだと使用しにくいかもしれません。
質問用紙	Q6：副作用に対して主治医に相談しても「うーん、それは仕方ないし我慢して」と言われることがあると、サバイバー仲間から聞くことがあり、結局我慢してしまうことがあるそうです。そういった時にはどう行動すればよいか、主治医に届く「魔法のことば」があれば教えていただきたいです。	A6：副作用症状によっては実際に対応が難しい場合もあるのですが、「何にどう困っているのか、どうしたいのか」を分かりやすく伝えることは重要だと思います。例えば、「痛みで眠れないので寝れるようにしたい」などです。支持療法によって、どうすることが目的なのかがハッキリすると、主治医も治療の目標を立てやすいと思います。また、主治医以外にも相談できる医療者や専門職(看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど)がいる場合、その方々に相談するのも良いと思います。

質問用紙	Q7：胃がんの場合、手術後に数年経ってから、食事の変化（例えば、チーズをほとんど食べていなかったが、ある日から食べるようになった等）も記録などをしておいて、通院の際に先生に伝えると良いのでしょうか。	A7：食事の変化が重要な情報かどうかは患者さんの状態や治療状況によるので一概には言えませんが、ご本人が気になるようであれば通院の際に相談してみてもよいと思います。また、「どういう事を気を付けたらよいですか？」 「どういう事を診察の時に伝えたらよいですか？」と聞いてしまっても良いと思います。
------	---	--